



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

備えあれば・・・

〔当法人評議員〕
武蔵村山病院

小柳 貴子 [看護師]

この冊子が皆様のお手元に届くころには、激化したインフルエンザとの闘いに終止符が打たれていることを願いつつ…気づけば年度末。4月からの診療報酬改定を迎えて、新たな闘いに熱くなる日々を送っている。

「時々病院ほぼ在宅」地域包括ケアシステムの構築と医療介護の連携強化を促進していく方向性がますます強化される。高齢者がその人らしく生活する場を“在宅”として、地域のシステムの中で医療もその一部を担っている。転ばぬ先の何たらではないが、いざという時のために自分で自身の人生を考え、備えることを支援していくことが大切だと実感する。そうとは言っても、不確定な未来事象を具体的に自分に置き換えて想定することは難しい。

45歳で糖尿病を発症した独身男性が、75歳になった時の自分を想像するだろうか。8歳で糖尿病を発症した女子がこの先の妊娠、結婚について考えるのはいつなのだろう。医療者として、このような患者にどのタイミングでこれらに対応できる知識を提供し、自ら備える機会を作ることができるだろうか。“自立支援”という言葉の重みが看護師としての自分にのしかかってくる。

今を楽しむことと将来に備えること。そのバランスが難しい。先日、私が担当している「糖尿病看護を語る会」という研修でリプロダクティブヘルスの視点から糖尿病をもつ女性の性をテーマに支援方法を語り合った。

糖尿病をもつ女性にとって、性や妊娠について主治医に話したくても話せないという人は少なくない。日本では、小学校高学年くらいに女子だけが集められ、月経に関する教育を実施している。しかし、その後は自己学習に頼っていることが多い。日本では妊娠＝結婚と考えることが多く、糖尿病をもつ女性にとって月経周期・妊娠・出産に関することは人生においても重要なことである。久留米大学の母性看護学准教授 田中佳代氏は、「デリケートな問題について話したくても話せないと考える女性患者は多く、この人になら話せると認識してもらえるようなコミュニケーションが大切」と述べた。セルフケア能力が高い場合などは、患者の本音は語られず周囲の人は患者の不安や困難な状況に気づきにくい。女性の場合は、診断された時から患者が相談できるような助産師や最適なサポーターを紹介するなど柔軟に考えていくことが大切と語った。

また、9歳で1型糖尿病を発症したAさんは、「サマーキャンプで親と離れて自分自身と向き合い考える機会を得られたことがその後の療養生活に大きな影響をもたらした」と話された。「医療者との関わりで自分は一人じゃない、みんなに支えられていると実感できた。自分の人生を、自分が考え納得して選択していけることが自分の自信につながった。」と話すAさんの清々しい表情が印象的であった。

誰もが老いる。どのような生活を送り人生を歩んでいくのか、患者とともに自分たちも今何ができるのか考え、行動に移すチャンスを逃さないでいたい。



2/3(土)第6回糖尿病看護を語る会にて

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 SGLT2阻害薬について正しいのはどれか、2つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. 尿細管のSGLT2を阻害することにより血糖値を下げる
2. SGLT2は消化管にも分布しているので副作用としての下痢は必発である
3. SGLT2阻害薬では下痢にともなう脱水に注意が必要であり、飲水励行を指導する
4. 副作用に尿路・性器感染症があるが、デリケートなことなので積極的に聞かないようにする
5. 原尿中の尿糖は1日140g程度であるが、健常者ではすべて再吸収して尿糖は0gとなる



報告

第18回糖尿病予防講演会

日時:平成29年9月30日(土)

場所:ルミエール府中

【当法人理事】 実行委員長 朝比奈クリニック 朝比奈 崇介 【医師】

去る9月30日にルミエール府中にて第18回糖尿病予防講演会が開催されました。糖尿病の療養生活は一生に亘って長く続くので、あまり一生懸命に食事運動も頑張るすぎると長続きしないよと思い、今回は「もっと気楽に糖尿病ライフ」というタイトルに沿った講演をしていただくようお願いしました。講演1の管理栄養士の渡部一美先生からは、「せっかくなら楽しんで！疑問を解決！糖尿病の食事」という題で、なかなか食品交換表を読んでもわからない、実際どうしたら良いのか？という方が多いので、糖質の制限を主体にすると楽ですよとお話をいただき、講演2の糖尿病看護認定看護師の松本麻里先生からは「糖尿病はどんな病気だと思いますか？」という題で、症状がでない糖尿病という病気を理解して、どういう付き合い方をすれば良いのかというお話をいただき、講演3の健康運動指導士の小池日登美先生からは「頑



皆藤先生



渡部先生



松本先生

張らなくても運動です～せっかくなら楽しく～」という題で、運動らしくなくても椅子に座ったままでも、日常生活の中でも運動療法はできますよとお話をいただきました。

その後今回特別講演として、京都大学教育学研究科教授の皆藤章先生からは「糖尿病医療学の必要性」という題で、人が人として生きていくうえで、糖尿病という問題がどのような影を落としていくのか、そしてそれを傍らに置いてどう

やって生きていくべきなのか、非常に深いお話をいただきました。あとで回収されたアンケートにももっと聞きたかった、生きる元気をもらったなど肯定的な答えが多く、実りある会となりました。



- 😊 食事療法、糖抜きなど驚きでした。臨床心理士のお話も初めて聞くことばかりで大変楽しく、自分も考え方を変えてみたいと思いました。
- 😊 糖尿病に向き合う大切な先輩がおり、その方の為にもこの病についてもっと知りたいと思って参加しました。より深く多くの事を考えるヒントをいっぱいいただきました。
- 😊 体操は大変良かったです。楽しくできました。

- 😊 皆藤先生は患者さんの治療をしながらも患者さんの心をくみ取り、すばらしい信頼感が得られ、患者さんにとって治療よりも、心の安心感が大事だと思いました。
- 😊 本日の講演を聞き、大いに怖い病気で気づくのが遅れては大変であることを学べたことに感謝します。
- 😊 糖尿病を患っていて、時には絶望的な気持ちになることもありますが、今日の皆藤先生のお話を聞いて、自分の人生という点から対応していきたいと思いました。
- 😊 もっと気楽に、楽しくというテーマにひかれて、楽しみに来ました。素敵な内容の数々に、とても刺激を受けました。
- 😊 皆藤先生の糖尿病の話はすべての病気に対して、また人との関わり方、ほかの病に対する考え方にも通じると感じました。まさに生きるとは、生き方とは、とても考えさせられました。

報告

第31回多摩糖尿病チーム医療研究会

日時:平成29年10月11日(水)

場所:ルネこだいら

平成29年10月11日(水)第31回多摩糖尿病チーム医療研究会がルネ小平にて行われました。本研究会は多摩地区の糖尿病診療に携わる医療機関のスタッフの糖尿病疾患に対する知識の向上とチーム医療の充実を目指し、多摩地区の健康増進に貢献することを目的として年1回開催されています。研究会当日は『取り残されないための糖尿病チーム医療ははじめの一步』をテーマに滝山病院の皆様より糖尿病治療に対する地域医療の現状と課題をご発表頂きました。

講演Ⅰは「地域の患者様の高齢化に伴う治療体制の充実が大切」をサブテーマに、外来看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師、病棟看護師のメディカルスタッフの皆様からのご発表でした。糖尿病治療にまつわるアンケート実施や糖尿病治療の実情把握と問題点の抽出からより良いチーム医療に向けた提案を行なって頂き、病院全体が一丸となって研究されている様子が印象的でした。



講演Ⅱは「糖尿病患者様における地域連携」をサブテーマに東京大学大学院 医学系研究科 内分泌病態学 山本浩之 先生よりご講演頂きました。合併症の評価・フォローを遅滞なくスムーズに行い、糖尿病連絡手帳の啓発や紹介しやすい、されやすい関係を構築することが地域連携では重要とのお話がありました。

当日は85名と多くの先生方がご参加され、満員御礼となり盛会裏に会も終演致しました。糖尿病チーム医療の発展と意見交流の場として非常に有意義な会であったと感じています。

報告

第33回武蔵野糖尿病研究会

日時:平成29年10月14日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

平成29年10月14日(土)さくらホールにて、『第33回武蔵野糖尿病研究会』が「認知症と介護連携」をテーマに開催されました。

基調講演は、東京医科歯科大学医学部附属病院 老年病内科の鈴木里彩先生より「もの忘れと糖尿病～医療でできること・介護でできること～」についてご講演いただきました。高齢者の糖尿病治療について、4症例の事例を基に活用できる制度や施設なども交えながらご紹介いただきました。また認知機能を短時間で評価する方法として記憶・復唱と時計描写にて評価するmini-Cogを教えていただき、診療にすぐに活用できるようなご講演でした。

特別講演は、順天堂大学 医学部 形成外科学講座 准教授の田中里佳先生より「糖尿病の下肢救済～フットケアから最先端治療～」について、下肢潰瘍の治療から最新の研究内容まで幅広くご講演いただきました。下肢救済ではまずは血流を確保し、その上でTIME Concept (T:TISSUE I:Infection M:Moisture E:EDGE)に従って治療をしていけば潰瘍も治療することができるとお話しいただきました。また、後半では血管幹細胞を用いた下肢血管の再生医療についてご紹介いただきました。早く実臨床でも使えるようになってほしい素晴らしいご研究でした。



当日は52名の先生方にご参加いただき、質疑応答でも熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。

当日は52名の先生方にご参加いただき、質疑応答でも熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。

報告

第10回ブルーライトアップ スカイトワー西東京

日時:平成29年11月11日(土)

場所:スカイトワー西東京

[当法人評議員] 実行委員長 杏林大学/近藤医院 近藤 琢磨 [医師]

平成29年11月11日、「第10回ブルーライトアップ スカイトワー西東京」が開催されました。11月14日の「世界糖尿病デー」にあわせた糖尿病の啓発イベントとして全国各地で展開されている行事であり、10年前からスカイトワー西東京(田無タワー)において、一般市民向けに講演会やライトアップイベントを本法人の共催のもと行ってまいりました。

記念すべき第10回の本年度は、インスリン療法をメインテーマにプログラムを組みました。まず、特別講演として当法人理事・東京医科大学名誉教授の植木彬夫先生から「やめられるインスリン療法と続けなければならないインスリン療法」というタイトルで、糖尿病の基本知識からインスリン療法に至るまで多岐にわたる大変わたりやすく勉強になるお話をいただきました。続いて「インスリンポンプ療法ってどんなことなの?」というタイトルで、多摩センタークリニックみらい院長の藤井仁美先生から、CSII治療に関する基本的な知識から最近の話題まで詳しくわかりやすくご紹介いただきました。最後に患者さん代表として、投埜博樹さんから「糖尿病と私」というタイトルで、糖尿病診断時の心境から治療経過での苦労話、さらには最近FreeStyleリブレでFGMを測った体験などを盛り込んでお話いただきました。

また、会に先立って、1階入り口付近で恒例のスタンプラリーを開催し、患者さんなど参加された方々には大変好評でした。残念ながら当日は、機器トラブル?でブルーライトが点きませんでしたが、11月14日には無事に点灯しているのを自分の目で確認し、ようやく一仕事終えた気分となりました。



報告

西東京CDEの会主催イベント「糖尿病クイズラリー」

日時:平成29年11月11日(土)

場所:スカイトワー西東京

[当法人会員] 実行委員 東大和病院附属セントラルクリニック 原島 健太 [管理栄養士]

11月11日(土)「第10回ブルーライトアップ スカイトワー西東京」が始まる前の時間を使って、西東京CDEの会によるイベント「糖尿病クイズラリー」を行いました。会場はスカイトワー西東京入口周辺を使用した屋外だったため、当日は晴天に恵まれたものの強風が吹き荒れる肌寒い中での開催となりました。それでも沢山の方がご来場され、楽しくイベントに参加して頂きました。毎年好評の1日に必要な野菜350gを予想して量ってもらう「量ってみよう」のコーナーでは、量った野菜はお持ち帰りできるので皆さん真剣な眼差しで野菜を選んでいました。実際に量てみると500g近くの野菜を選んでしまったり、ひっかけ食材の「さつまいも」や「じゃがいも」を選んでしまったりと楽しみながら学んで頂くことができました。「食事と運動」のコーナーでは、選んだおやつのカロリーを考えてもらい、どんな速さで何分間歩けば消費できるのか、年齢や身体情報をもとに個別に算出し、実際にスタッフと会場内を歩いて体験してもらいました。参加者からは「参考になりました。」「もう少し早めに歩くようにします。」など

体験して良かったとの嬉しいお言葉も頂きました。そして、簡単な問題に答える「お薬クイズ」の各コーナー



でスタンプを集めた方にはヨーヨー釣りに挑戦して頂きました。公演が始まるまでの約1時間でしたが、大盛況なイベントとなりました。



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第62回例会

日時:平成29年11月18日(土)
場所:国分寺市立いずみホール

【当法人理事】 第62回例会当番幹事 吉元医院 吉元 勝彦 【医師】

第62回例会は「その血糖値どこまで信用できる?～血糖測定の実状と問題点～」をメインテーマに平成29年11月18日(土)、国分寺市立いずみホールで158名の参加者のもと開催されました。

第1部は秋例会の定例として当法人の現況につ

いて、住友理事から企画委員会の報告がありました。様々な事業説明の中、昨年7月に介護関連医療者向けの糖尿病研修会が初めて開催されたこと、またこの領域は今後益々重要な部門となってくるとのお話がありました。続いて、熊倉医院の熊倉 淳先生から残薬ワーキンググループの報告がありました。今回は残薬に関するアンケート結果を中心に説明があり、今後の課題について熱心な討論が行われました。

第2部では、臨床検査基準測定機構(JRMI)代表理事の桑 克彦先生より「糖尿病診療におけるSMBG・CGMとPOCTの役割及び留意点」という題で講演を頂きました。まず血糖測定の歴史から始まり興味が深くなった後に、SMBGとPOCTの差異を、さらに血糖ではなく間質液中のグルコース濃度を測定するCGM及びFGMについて、その解釈と留意点を大変わかりやすく教えて頂きました。続いて多摩北部医療センターの藤田寛子先生から日常診療で遭遇することのある低血糖の病態を詳しく解説して頂き、その対策に



についても教えて頂きました。いずれの講演も明日からの診療にすぐに役立てることのできるものであり、例会後のアンケートでも多くの高い評価を頂きました。ご講演頂きました各先生に厚く御礼申し上げます。



- ☺ 反応性低血糖の考え方の新たな指針を得られたと感じました。
- ☺ (静脈血)採決結果とSMBG、POCTの違いをしっかりと認識することができました。
- ☺ SMBG、CGM等を行っている、数値ばかりにとらわれがちですが、症状や患者さんの様子を優先することが大切だとわかりました。
- ☺ 夜勤時の低血糖による集中力低下などによる医療事故を防止するため、食事や休憩は必ず取らせるよう指導していくことが大切と思いました。

☺ 血糖モニタリングについて、とても勉強になりました。病院の血糖とSMBGどうしてこんなに違うのかは本当に良く言われる質問だったので、解決したように思います。

☺ 先日、自分自身でリブレ、OGTTを体験したばかりで、本日の内容は自分に当てはめて聞くことができました。

報告

第21回 西東京糖尿病心理と医療研究会

日時:平成29年10月21日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

[当法人理事]

朝比奈クリニック 朝比奈 崇介 [医師]

去る平成29年10月21日、国立市さくらホールにて天理よろず相談所病院の北谷真子先生と京都大学教育学部の皆藤章先生をお招きし、大橋健先生と私で司会のもと、第21回西東京糖尿病心理と医療研究会が開催された。今回も糖尿病医療学会などで北谷先生が何度か行われている「糖尿病医療学的症例検討会」を実施。これは前回同様、演者に医療者と患者の関わりを発表して頂き、聴衆がそれに対する感想や意見などを数人一組になりディスカッション、発表するというワークショップ形式の検討会である。今回は「劇症1型糖尿病と診断された患者さんとの発症から3年間の歩み」という演題で多摩センタークリニックみらいの看護師の菅原加奈美先生に提示頂いた。Aさんは当初1型糖尿病である自分を受け止めたに見えたが、接していくうちに段々受け止めきれていないことが露わになってくる。それをきめ細やかに伴走するうちに受け止めたのか血糖が下がっていく。最期は休職という形でAさんとは関わりが切れるが、明るい未来をうかがわせることは観客のみなさんも共有できたと思う。第2部では急遽、菅原さんの発表内容に沿った解説をして下さった皆藤章先生。いつも大事なポイントについてご解説頂ける幸せを身に浴びて聞くことができた。

また来秋にも北谷先生、皆藤先生をお招きして医療学的検討会を中心に据えた第22回が開催されることになった。また今回のような大勢の参加者と共に白熱した議論を行いたい。



報告

TAMA糖尿病チーム医療1UP Seminar

日時:平成29年11月21日(火)

場所:三鷹産業プラザ

三鷹産業プラザにおきまして「TAMA糖尿病チーム医療1UP Seminar」を開催させて頂きました。本会は医師・看護師・薬剤師・栄養士の先生方を対象にご参加頂き、ワークショップ形式で様々なテーマについて全員参加型の闊達なディスカッションを展開させて頂きました。今回は「糖尿病災害対策」をテーマと致しました。基調講演では、多摩総合医療センター・辻野元祥先生に「災害に備え、医療者の想定すべきことは？」というご演題のもとご講演頂き、医療者としての「日頃からの災害に対する備えの意識・知識」についてご教授頂きました。その後の本会の肝となりました「ワークショップ」では、東日本大震災や熊本地震の際に実際に生じた問題点を情報共有致しました。そして、各職種の垣根を越えて普段から出来る「備え」の意識・知識について情報交換をして頂きました。34名の医師・コメディカルスタッフの方々に参加して頂き、5グループに分けてワークショップをして頂きましたが、各グループで「問題」に対して職種によって違うアプローチ(意見)が飛び交い非常に闊達なディスカッションが展開されていました。職種は違いますが患者さんと普段から接している皆さま同士の情報共有は大変有意義であったかと思われま

す。コメディカルスタッフの皆さまが普段より抱かれている問題点や、ニーズに応えられるテーマを検討し次回開催も検討させて頂きたく存じます。





第21回日本病態栄養学会年次学術集会

平成30年1月12日(金)～14日(日)

国立京都国際会館

[当法人会員]

東京医科大学八王子医療センター

古畑 英吾 [管理栄養士]

日本独特の情緒ある景色は今年も雪で染まることになりました。雪化粧をまとった京都で第21回日本病態栄養学会年次学術集会が平成30年1月12日(金)～14日(日)の3日間で開催されました。年々参加者が増えており、今年も5000人以上が京都国際会館に集まりました。

今回は「次の20年を見据えた大会」と銘がうたれており、これまでの20年で構築されてきた管理栄養士の各分野への専門性の強化が、認定制度といった形で具現化されていました。

病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、腎臓病病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士の制度が整備され、シンポジウムへの参加で更新や申請の単位となることが今回の学会の特徴だと感じられました。

「専門管理栄養士の現状」のシンポジウムでは、基調講演として、厚生労働省健康局よりご講演頂き、専門分野別の管理栄養士に期待されることが話されていました。その中では、栄養士法の改正の中で、管理栄養士の資質向上の流れについて述べられており、高度な専門性を発揮できる、生涯教育の一環として、認定制度が位置付けられていました。行政の期待としては、在宅分野への進出に期待を寄せているようで、講演の時間も多く割かれていました。また、日々の現場の中での実践の事実から、食生活・栄養の支援をはじめ、実践に基づく研究を行い、エビデンスを作り、情報の発信を行うことで、より効果的な支援の実現となる政策の改定につながることが強調されていました。つまり、現場から情報を発信していくことが重要とされていました。その点からも、獲得した資格はスタートポイントであり、現在の資格取得者をトップリーダーとして、認定としてのレベルの向上や資格取得者の拡大といったビジョンが伺えました。そして、糖尿病の分野でのトップリーダー育成のための資格制度が糖尿病病態栄養専門管理栄養士であり、研究とエビデンスの確立を求められているようです。その点で、糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートである糖尿病療養指導士とは求められている部分の違いを感じました。

エビデンスの発信といえば、J-DOIT3(糖尿病合併症抑制のための介入試験)の結果について会長講演やランチョンセミナーなどで触れられており、強化療法群で心血管イベントが19%減少することについて話されていました。この強化療法群では管理栄養士による食事療法の徹底や運動量測定器を利用し生活の変容を強化することなどが、基盤にあることが強調されており、療養指導の重要性を再確認できました。同時に、糖尿病療養指導士のきめ細やかな生活指導への介入が、患者さんのイベント発生率の低下につながるということは、人生をも変えうる、とても重要な因子の一つなのだと改めて感じることができました。また、研究の特徴として、重症低血糖の発現が、他の国々の介入研究より極端に少ない点が挙げられており、このことから日本の糖尿病に対する治療の水準の高さが示されていました。

日々の現場の実践に忙殺されぬよう、情報の発信など先を見据えた業務を行いたいと感じさせられた学会でした。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 SGLT2阻害薬は近位尿細管でのグルコースの再吸収を抑制することで、尿糖排泄を促進し、血糖低下作用を発揮する。

1. ○
2. × SGLT1は消化管・心臓・骨格筋・肝臓・肺・近位尿細管、SGLT2は主に近位尿細管に分布している。
3. × 利尿作用の増強に伴う脱水である。循環動態の変化に基づく重症の脱水と脳梗塞の発生が報告されている。
4. × 尿路・性器感染症は注意が必要な副作用である。質問紙の活用を含め適宜問診・検査を行って、発見に努める必要がある。
5. ○

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

《 1月より、2018年度年会費納入が始まりました 》

2018年度の年会費納入が、1月より可能になりました。会員継続される方は、ご自身のマイページにアクセスいただき、**3月31日まで**にご納入をお願いいたします。

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q. お問い合わせフォームは、どこにありますか？

- A. **＜パソコンの場合＞** ホームページのヘッダー部分(一番上)と、フッター部分(一番下)にあります。
＜スマートフォンの場合＞ ページ上部の「メニュー」の中にあります。



＜パソコン＞



＜スマートフォン＞



お問い合わせには、メールアドレスをお持ちでない方以外は全て、メールでご返信しております。また、お問い合わせフォーム送信後に、「お問い合わせ完了のお知らせ」というタイトルで、入力内容を自動返信しております。このメールが届いていないようならば、メールアドレスの入力間違い、もしくはお使いのメールアドレスの迷惑メールフィルター等によって、ご回答したメールが受信できていない可能性があります。お急ぎの場合はお電話でお問い合わせください。



研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業 ◆ 共催・後援事業 □ その他

◆ 平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

- ＜看護系＞ 第15回 西東京教育看護研修会
- ＜栄養系＞ 第15回 西東京病態栄養研修会
- ＜薬剤系＞ 第15回 西東京薬剤研修会
- ＜臨床検査系＞ 第3回 西東京臨床検査研修会
- ＜運動療法系＞ 第3回 西東京運動療法研修会

開催日：平成30年7月1日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場 所：北里大学・薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」徒歩13分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/8~4/30] 5,000円 / 通常[5/1~6/21] 6,000円

申 込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の「平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちら」よりお申込みください。（6/21(木)締切）

※フリーコースは5/1からのお申込みとなります。

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



都心で最低気温零下の日が続いたり、1月の大雪など、何十年ぶりの寒さということでしたが、この号が届く頃にはもう暖かくなっているのではないかと思います。さて、今号は多職種連携の話題が多い号になりました。糖尿病治療の目的は患者さんに幸せに暮らしていただくことであり、そのためにますます連携は重要性を増しており、その場として当法人を活用していただければと思っています。
 （広報委員長 西田 賢司）